

三菱電機伊丹製作所①

…尼崎にあつて、なぜ「伊丹」

福知山線の電車が塚口駅を出発して阪急線と交差する地点、すぐ右手に続く巨大な研究所・工場群が、言わずと知れた三菱電機伊丹製作所です。敷地面積は約86ヘクタール（甲子園球場 22 個分）、ほぼ1 km四方です。ここには、社会システム事業本部配下の伊丹製作所、電子システム事業本部配下の通信機製作所、通信システム事業本部配下のコミュニケーション・ネットワーク製作所、電力産業システム事業本部配下の系統変電システム製作所、および同社最大の研究所である先端技術総合研究所と生産技術センター、設計システム技術センター、コンポーネント製造技術者センター等の施設や製作所があります。この敷地で働く人々は、関連会社も含めると何と総勢5千人を超えるそうです。

さて、ここで伊丹製作所の生い立ちを追っていくこととします。1921年、三菱電機株式会社は、三菱造船電機製作所（神戸）から独立します。そして、1940年に神戸製作所の分工場（大阪工場）として設立されたのが当製作所です。1942年には分工場から独立して「大阪製作所」となり、1944年に「伊丹製作所」に改称。さらに翌年4月には、「神武稲野製作所」に改称されますが、同年8月には再び名前を「伊丹製作所」に戻します。分工場発足から数えて、僅か5年足らずの間に、5回も名前を変えるとは目まぐるしい限りです。1953年には無線機製造部門が、無線機製作所（現 通信機製作所）として分離独立しました。さらに1964年伊丹製作所管内に、小型遮断器・断路器等の量産工場として、三田工場を、1972年に外鉄形大型変圧器製造部門を移管し赤穂工場を設立します。その後1977年に 赤穂工場が赤穂製作所として独立、1986年には三田工場が三田製作所として独立しました。そして、1997年伊丹製作所、赤穂製作所、神戸製作所の一部、本社の一部を統合し、敷地内に系統変電・交通システム事業所を設立しました。2001年応用機製造部を、多田電機株式会社に移管。2002年、系統変電・交通システム事業所を、交通システム事業所、伊丹・赤穂地区統括事務所、ティーエム・ティーアンドディー株式会社（株式会社東芝との合併会社、2005年4月に解消、現 系統変電システム製作所）に分割。2005年、交通システム事業所、伊丹・赤穂地区統括事務所を統合し、再び伊丹製作所に改称しました。

こうしてみると、伊丹製作所が神戸製作所の分工場から独立し、さらに三田や赤穂に分工場を持ち、それらの分工場が独立するといった形で発展してきたことがわかります。あたかも、子どもが成人して親元を離れ独立し、その子ども（孫）が同じく独立していくような感じです。それは、一家の成長物語を見ているようです。

さて、尼崎市内（尼崎市塚口本町八丁目1番1号）にあるのにどうして「伊丹製作所」なのか…元々、設立当時は川辺郡園田村を所在地としていたのですが、村名を冠した工場名では知名度が低く、（尼崎よりも）伊丹の中心地に近かったこともあって「伊丹製作所」と相成ったようです。1947年（昭和22年）3月1日、園田村が尼崎市に編入されたことにより、所在地が尼崎市内となりましたが、地理的な位置関係からみると「伊丹」を冠するのも納得です。

「東京ディズニーリゾート」が千葉県浦安市にありながらも、県都の千葉市よりも東京都心に近く、かつ国際的にも知名度が高い「東京」の名を冠したのと似ています。

会社名や工場名をたどれば、そこには人々の想いや歴史文化が刻まれていることがわかります。

<参考文献>三菱電機HP トップページ>企業情報>三菱電機について>拠点情報製作所・研究所他

Wikipedia 「三菱電機伊丹製作所」

『三菱電機伊丹製作所四十年のあゆみ』

伊電史編集委員会、1981年、340頁。

『三菱電機伊丹製作所五十周年記念誌』

伊電50周年記念誌編集委員会、1991年、157頁。